

>公募シンポジウム 1

開催形式:ライブ配信

多彩なキャリア観の獲得で、燃え尽きを防ぐ(公募企画)

企画責任者 賀来 敦(社会医療法人清風会岡山家庭医療センター)
共同講師 宮田 靖志(愛知医科大学)
蓮沼 直子(広島大学医学部附属医学教育センター)
長谷田 真帆(京都大学大学院医学研究科
国際保健学講座 社会疫学分野)
飯島 研史(群馬家庭医療学センター／北毛病院)

[開催の目的]

【目的】医師のキャリア観の diversity & inclusion(D&I:多様性と容認)を勧めるべき理由/実践の提示と議論

【背景】本邦では地域の医師不足に対応するため、社会貢献を義務と捉え、勤務の継続を責務とする考え方を基盤としてキャリア教育/支援を行う場合が少なくない。一方、使命などの強迫的感覚や義務感などによる質の低いモチベーションは、かえって燃え尽き症候群を増加させることが近年明らかになってきた。

医師の燃え尽き症候群は、診療の質や医療コストにも影響を与える社会問題であり早急な対策が必要である。燃え尽き症候群を誘発する画一的なキャリア観の付与を避けた、キャリア観の多様性を認めるキャリア教育/支援が求められてきている。

[特徴]

本セッションは、日本プライマリ・ケア連合学会男女共同参画委員・健康の社会的決定要因検討委員・専門医部会キャリア支援部門幹事・日本医学教育学会倫理・プロフェッショナリズム部員によるコラボレーション企画です

[企画概要]

【概要】

本セッションでは、まず燃え尽き症候群の現状と誘発のプロセスを解説し、次に燃え尽き症候群とレジリエンスを視野に入れたプロフェッショナリズム教育やキャリア支援の方策・具体例について述べる。さらに具体例に対して、総合診療医のもつ技能(健康の社会的決定要因への対応能力/社会的処方)をもとに解説する。そのうえで、医師の社会貢献のあり方(キャリア)の多彩さについて参加者と意見交換をしていきたい。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受けいれ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会場 オンライン開催
大場 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

【演題】

- ・押しつけは燃え尽きを増やす:総論 (賀來)
- ・燃え尽き症候群・レジリエンスを視野に入れたプロフェッショナリズム教育(宮田)
- ・その人らしさを活かす、メンタリングによるキャリア形成支援(飯島)
- ・多様な価値観を認め合うキャリア教育/支援の実践(蓮沼)
- ・健康の社会的決定要因への対応と総合診療医のキャリア(長谷田)



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

- 会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
- 会場 オンライン開催
- 大会長 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>公募シンポジウム 2

開催形式:ライブ配信

日本の病院総合診療医像の確立 by JUGLER

-病院総合診療専門医プログラムとコアモジュールから紐解く-(公募企画)

企画責任者	多胡 雅毅(佐賀大学医学部附属病院 総合診療部)
座長	多胡 雅毅(佐賀大学医学部附属病院 総合診療部)
演者	志水 太郎(獨協医科大学 総合診療医学) 佐々木 陽典(東邦大学医療センター大森病院 総合診療・急病センター) 舗野 紀好(千葉大学医学部附属病院 総合診療科) 和足 孝之(島根大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター) 高橋 宏瑞(順天堂大学医学部 総合診療科) 合田 建(兵庫県立丹波医療センター／神戸大学 地域医療支援学部門) 大浦 誠(南砺市民病院 内科・総合診療科) 本郷 舞依(みちのく総合診療医学センター／坂総合病院 総合診療科)

[開催の目的]

JUGLER(Japan University General Medicine Leadership and Education Roundtable)では、これまでに病院総合診療医に必要なスキルであるコアモジュールについて、関連学会で議論してきた。コアモジュールは臨床・研究・教育・ソーシャルスキルの4分野からなり、病院総合診療医が修得すべき具体的なスキルを網羅している。また我々は、2021年度より開始される病院総合診療専門医プログラムのマニュアル作成にも携わった。プログラムマニュアルの冒頭では、日本の病院総合診療医が目指すべき医師像を、ジェネラルマインド、地域包括ケア、診療・診断能力、マネジメント、リーダーシップ、医療の質、経営、教育、研究をキーワードとして、10項目にまとめた。本企画では、この2つの指針について議論し、日本で求められている病院総合診療医の医師像の確立を目指す。

[企画概要]

本企画では、まず病院総合診療医のコアモジュールと病院総合診療専門医プログラムに示した目指すべき医師像10項目について詳細を説明する。その後それぞれの分野、項目別に関連するテーマや疑問点を上げ、演者と参加者と共にディスカッションを行う。まとめとして、議論した内容をもとに日本で求められている病院総合診療医像に関する提言をまとめる。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受けいれ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会場 オンライン開催
大会 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>公募シンポジウム 3

開催形式:ライブ配信

プライマリ・ケアにおける国際分類の活用法 ～新しく改訂された分類(ICD-11、ICPC-3)から読み解く将来の展望～ (委員会企画)

企画責任者	高柳 宏史(熊本大学病院 地域医療支援センター)
座長	高柳 宏史(熊本大学病院 地域医療支援センター)
導入演者	高柳 宏史(熊本大学病院 地域医療支援センター)
演者	大倉 佳宏(徳島大学病院 総合診療部)
	藤田 伸輔(千葉大学予防医学センター)
	今井 健(東京大学 大学院医学系研究科 疾患生命工学センター 医工情報学部門)

[開催の目的]

毎年 ICPC を用いた臨床疫学研究の報告が学術大会で発表されるようになり
ました。実臨床の研究、質管理、研修・教育にも利用できる ICPC について、
その活用法について紹介します。また 2018 年には国際疾病分類の改訂版で
ある ICD-11 が発表されました。そして、それに対応する ICPC-3 の開発が
現在進んでいます。いままでの ICD-10 から ICD-11 へはどのような改訂があ
ったのでしょうか。また ICD-11 に対応する ICPC-3 はどのように変わるの
でしょうか。こういった分類の改訂は、プライマリ・ケアのとらえ方の変化ともいえ
ます。分類の改訂内容を専門家から学ぶとともに、それらの改訂から見えてくる
今後のプライマリ・ケアについて参加者の皆さんと考えていきたいと思いま
す。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会場 オンライン開催
大会長 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>公募シンポジウム 4

開催形式:ライブ配信

With コロナ時代の総合診療・地域医療教育を考える(委員会企画)

企画責任者	前田 隆浩(長崎大学病院 総合診療科)
座長	鈴木 富雄(大阪医科薬科大学 地域総合医療科学寄附講座)
	石川 鎮清(自治医科大学 情報センター)
シンポジスト	網谷 真理恵(鹿児島大学地域医療学分野)
	吉村 学(宮崎大学医学部 地域医療・総合診療医学講座)
	田口 智博(藤田医科大学地域医療学)
	永田 康浩(長崎大学 地域医療学分野)
	岡山 雅信(神戸大学大学院地域医療教育学部門)

[開催の目的]

医学教育モデル・コア・カリキュラムにも記載されているとおり、診療参加型臨床実習や地域基盤型医学教育の充実、そして地域包括ケアシステムに関する教育の重要性が指摘されており、近年、全国の大学でこうした教育を充実させる動きが進んできた。しかしながら、2020年に始まった新型コロナウイルスの感染拡大によって教育形態は見直され、感染拡大防止の観点から臨床実習を含めてオンライン教育が全国的に常態化している。これまでの診療参加型の教育を行うことが困難になり、対面教育の制限による医学生への影響が懸念されている。こうした状況が今後も持続する可能性を踏まえ、新型コロナウイルスと共存しながら効果的な教育方策を考えることが求められている。コロナ禍によって社会全体が変化を促される中、総合診療・地域医療に関する卒前臨床教育をテーマとして、各大学の工夫をもとに、With コロナ時代の臨床教育について議論を深めていきたい。

[企画概要]

新型コロナウイルスの感染拡大が大学の授業形態に大きな影響を及ぼす中、多くの大学で様々な工夫を凝らしながら安全で効果的な臨床教育を模索する取組が進んでいる。学生の健康管理や生活指導を徹底し、PCR検査を多用して安全に対面教育を行うための対策を強化する大学がある一方で、シミュレーション教育やオンライン教育のコンテンツを充実させる方向で臨床教育の充実に取り組んでいる大学もある。新型コロナウイルスの感染拡大以

降、急速に普及・進化してきたオンライン教育については、その教育効果について

第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会

プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

- 会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
- オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
- 会場 オンライン開催
- 主催 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)

<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>



も検証していく必要がある。コロナ禍で多くの大学が対面教育の継続に苦慮している中、本シンポジウムでは精力的に総合診療・地域医療に取り組んでいる大学に参考となるような実践例とオンライン教育の効果検証について紹介してもらい、With コロナ時代の臨床教育の在り方について議論する。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

- 会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
- 会場 オンライン開催
- 大会長 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>公募シンポジウム 5

開催形式: ライブ配信

トヨタ生産方式(TPS)で変わる在宅医療の未来(公募企画)

企画責任者 小笠原 雅彦(豊田地域医療センター)
発表者 坂井 友香(豊田地域医療センター)
高橋 智和(トヨタ自動車)
平迫 明彦(トヨタ自動車)
パネラー 近藤 敬太(藤田医科大学 総合診療プログラム)
大杉 泰弘(藤田医科大学 医学部 連携地域医療学)

[開催の目的]

豊田地域医療センターでは『トヨタ生産方式=TPS』といった業務効率改善活動はこれまで積極的には行われてこなかった。むしろ医療における『安全』と『効率改善』は相反するものという風潮が背景にあり、時間をかけて、ゆっくりと、が当たり前の雰囲気があった。しかし今回トヨタ自動車株式会社に、安全を確保することは当たり前で、その上でムダを排除し、質・量・コスト・Lead Time を極限まで追求するという姿勢を教えて頂き、実際の医療現場においても非常に有用で様々な成果を挙げる事ができている。より深刻な高齢化により医療需要はさらに増大していく中で、参加者に TPS とは何か、自分が働くフィールドではどのような事ができるかを持ち帰っていただき、プライマリケア業界に『改善』のタネをまくことを目的とする。

[企画概要]

豊田地域医療センターは 190 床の機能強化型在宅療養支援病院であり、現在は日本最大の病院在宅医療を行っている。しかし、規模が拡大すると共に業務量の増大から、マンパワー不足、残業時間や離職率増加などの諸問題が起こり、業務の効率化が急務となった。今回、地元の世界的企業であるトヨタ自動車株式会社とコロナ対策で協働したことをきっかけに、当院の在宅医療の業務効率改善活動を行った。『トヨタ生産方式=TPS』はものづくりにおいてムダを排除し、効率的な業務を追求した方式だが、医療現場にも直接応用可能であり、人材育成を通して次世代に文化を継承する素晴らしい方略でもあった。今回は『TPS とは何か』について講演をし、その上で、当院が TPS を用いてトヨタ式の物品の管理の方法や、在宅医療のルート作成など、どのように業務効率を改善したかについて具体例を示しながら、未来の在宅医療について参加者と共に学びを深めていきたい。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会場 オンライン開催
大場 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>

>公募シンポジウム 6

開催形式: ライブ配信

コロナ到来で変わる診療 ～今こそジェネスペリストを広げよう！～ (公募企画)

企画責任者 鈴木 聡(市立旭川病院総合内科)
ファシリテーター 赤井 靖宏(奈良県立医科大学 地域医療学)
八田 告(八田内科医院)
東 光久(福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー)
原 将之(済生会京都府病院 腎臓内科)
西山 大地(市立福知山市民病院 血液内科)

[開催の目的]

2020年に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行が始まってから、社会は一変しました。医療の現場はその最前線に立たされ、COVID-19患者の対応もさることながら、発熱や呼吸器症状を呈する患者の対応や、様々な理由からPCR検査を希望する患者の対応などに追われることになりました。今後しばらくコロナ禍は終息しそうにありませんし、ジェネラリストもスペシャリストもお互いに情報を共有しながら診療に携わることが必要になります。このセッションでは参加いただく皆様の地域や医療機関における、COVID-19を念頭においた診療のあり方についてディスカッションし、情報共有することを目的としています。

[企画概要]

新型コロナウイルスの到来により、発熱診療は未曾有の困難に見舞われています。一握りの感染症専門医や、数で劣る総合診療医だけが直面する問題ではなく、定期通院患者でさえコロナ患者たりえるため、領域別スペシャリストといえども発熱と無縁ではいられない時代になっています。凶らずもコロナ禍は、発熱という極めてコモンで奥深い症候に対して、ジェネラリストとスペシャリストの垣根を越えて全ての医師が対峙しなければならないという社会的ニーズをもたらしました。この時代の求められるのは専門性を超えてジェネラルマインドを持って診療する医師、すなわちジェネスペリストです。このセッションではジェネラリストとスペシャリストが互いにモチベーションを維持・向上させながら協働するために、各医療機関で経験した困難や苦悩、工夫、成功体験を共有し、明日からの診療を担うジェネスペリスト普及の道を模索します。



第12回 The 12th Annual Conference of Japan Primary Care Association
日本プライマリ・ケア連合学会
学術大会
プライマリ・ケア×ダイバシティ
～多様性を受け入れ活かすケア～

会期 ライブ配信 2021年5月21日(金)～23日(日)
オンデマンド配信 2021年5月21日(金)～7月21日(水)
会場 オンライン開催
大場 大野 每子 (唐津市民病院きたはた 院長)



<https://www.c-linkage.co.jp/jpca2021>